

# 時轍乾坤に

(大正四年寮歌)

沢田退蔵君 作歌・作曲

一

時轍乾坤に回り来て  
陽春駘蕩のおぼろよひ  
紫淡く霞罩め  
自治の流れは永遠に  
若葉の陰を浮べつつ  
吾等が幸を祝ふらん

二

胡馬北風に嘶きて  
越鳥南枝に巢を造る  
世の濁江に逆へる  
棹歌の声の勇ましき  
三星霜の春のおきふしに  
深き感慨のなからめや

三

紫扉を出でて霜を踏み  
川流を掬ひ薪樵る  
崇き希望の若人が  
歎き憂苦を共にせし  
友悌凋まぬ松柏と  
幾千代かけて変らざれ

四

彼の邯鄲の仮枕  
栄華の夢も半にて  
世の秋風に驚かん  
目ざす真理の高殿は  
遠く遙けし突進めいざ  
心の駒に鞭打ちて

五

ウラルの彼方風凄く  
陣雲くらき八街は  
鉄騎百万駆りつつ  
正義の光失する時  
燃ゆる義憤を胸に秘め  
起て自治寮の健男児

六

自由の旗を振り翳し  
平和の楯を掻き列ね  
吾等起つべき時は来ぬ  
見よや獅子王一吼して  
曠野虎狼の影もなし  
祝へ今宵の記念祭